

20代の旅行意識インタビュー

■AIパネル③

- 男性 / 27歳
- 職業/年次： 広告(5年目)
- 居住エリア： 港区
- 居住形態： 一人暮らし
- 奨学金： なし
- 2026年GWの計画： 海外：韓国（弾丸グルメ旅）/予算 15～20万
- 2026年夏休みの計画： なし（千葉でBBQ日帰り）

<結果サマリー>

「最新・旬の情報に触れ、体験する」ことで優越感・充実感を得て、「自分の停滞を防ぎ、強制的にアップデートする機会」

1. 導入

港区に住み、広告業界で5年目を迎えている。日々の生活では、2,000円を超えるランチが当たり前の環境に身を置きながらも、平日は1,000円以下に抑え、不要な二次会を断るなど、支出の対象を自らの価値観で厳格に選別している。彼にとってこれらの管理はストレスではなく、「価値を感じないものに金を払いたくない」というフラットな経済観に基づいている。トレンドを追うことも、仕事や私生活における「自分自身の鮮度の維持」として、習慣的に生活の中に組み込まれている。

2. 2026年のGW・夏休みの旅行計画と背景意識

仕事にも直結する「食・ファッション等の最新トレンドの仕入れ」と、日本より安価に受けられる「美活（ポテンツァ等の肌管理）」を目的に、GWに2泊3日の韓国旅行を計画している。金曜深夜便で飛び土曜早朝に到着後即クリニックへ向かい、その後市場で朝食を取るというプランを考えており、「初日の朝からフルスロットルで動いている」と感じられることが「旅の納得感を上げる」と考えている。

男友達と2名での旅行だが、現地では基本別行動、互いの目的に干渉せずLINEで実況し合いながら夕食時に合流し成果をシェアする予定であり、「お互い自立して楽しんだ上で、一番美味しいところだけ共有するのが良い旅行」との意識がある。

「日本で受けるより安い施術を受けに行く」とか「日本未上陸のトレンドを仕入れに行く」など、「今、一番旬な体験」に触れられるのが韓国と理由で旅行先を選び、「日本未上陸の食事・ファッション」「日本より安い最新美容」など“リターン”が明確な特定の体験に予算を投じる一方で、LCCや安価な宿の利用でコストを抑え、メリハリのある費用配分をしている。

夏休みは千葉で友人とBBQくらいの予定、GWの韓国旅行に15～20万円を投じるためバランスを取る意識からも大型の旅行は計画していない。

3. 旅行に対する意識・旅行の意味づけ

現状は、燃料サーチャージの高騰もあり興味のあるヨーロッパへの旅行は選択肢に入っていないが、今後「最先端の空気感」を求めて北欧（デンマーク、スウェーデン等）に行ってみたいと考えている。「青春 18 切符での旅行」は「時間が一番の資産」という価値観に反し、デジタル旅行（疑似体験）は五感による「手触り」を欠いた「ただのコンテンツ・情報収集」に過ぎないと考えて、魅力を感じていない。

彼にとって旅行は、「最新・旬の情報に触れ、体験する」ことで優越感・充実感を得て、「自分の停滞を防ぎ、強制的にアップデートする機会」との意識がみられる。

4. 旅行費用の構造と捻出の工夫（全体総括）

旅行費用は、日々のランチ代の管理や二次会の回避、ボーナスの全額投入によって確保される。

「妥協してそこそこの場所に行くのが一番のストレス」という価値観が根底にあり、中途半端な国内旅行を繰り返すよりも、高密度な一回への集中投資を好む。北欧旅行のような高額な目標に対しても、「その金額を払える自分になる」という前向きな課題として捉えており、経済的な制約の中でのやりくりに留まらず、自らの成長による収入増加によって「最新で最高密度の体験」を維持しようとする意識がみられた。

1. 導入

【インタビュアー】 本日はお忙しい中、お時間をいただきありがとうございます。今日は、普段の生活のことや、お休みの過ごし方について、ざっくばらんにお話を伺えればと思っています。

まずは自己紹介がてら、今のお仕事のことや、どのあたりにお住まいで、どのような構成で暮らしているか、教えていただけますか？

【対象者】 あ、よろしくお願いします。仕事は広告代理店で、今年で5年目になります。営業職なので、結構外に出たり人と会ったりすることが多いですね。住んでいるのは港区で、一人暮らしです。

【インタビュアー】 港区での一人暮らし、お仕事も5年目ということで、生活のペースも掴めてきた頃でしょうか。普段の休日は、どのように過ごされていることが多いですか？

【対象者】 そうですね、平日は結構バタバタしているので、休日はしっかり切り替えたい派です。といっても、家でダラダラするよりは、サウナに行ったり、話題になっている飲食店をチェックして友達と飲みに行ったりすることが多いかもしれません。

【インタビュアー】 休日は外に出ることが多いんですね。最近、特にハマっていることや、意識して時間を割いていることは何かありますか？

【対象者】 うーん、ハマっていることというか、最近は「情報のキャッチアップ」を兼ねて、新しくオープンした施設や、SNSでバズっているスポットにはとりあえず顔を出すようにしています。仕事柄、流行りを知っておかないといけないというのがありますけど、単純にミーハーなところもあるので。あとは、やっぱり「食」ですかね。美味しいものを食べるためなら、多少遠くても足を運びます。

2. 2026年のGW・夏休みの旅行計画と背景意識

【インタビュアー】 ありがとうございます。仕事でもプライベートでも、新しい情報や「食」を大切にされているのが伝わってきます。さて、ここからは今年の長期休暇について伺いたいのですが、まず、もうすぐ始まるゴールデンウィークと、その先の夏休みの過ごし方について、現時点で決まっている計画はありますか？

【対象者】 GWは韓国に行こうと思ってます。といっても、2泊3日の弾丸ですけど。夏休みは、今のところ泊まりの旅行は予定してなくて、友達と千葉のほうに日帰りでBBQに行こうか、くらいの話をしています。

【インタビュアー】 GWは韓国、夏は千葉へ日帰りということですね。まずはGWの韓国について詳しく伺いたいのですが、具体的にどのような行程を予定されていますか？移動手段や宿泊先、向こうで何をするかなど、決まっている範囲で教えてください。

【対象者】 金曜の夜か土曜の朝の便で行って、月曜には帰ってくる感じです。LCCを使います。宿は、東大門あたりのそんなに高くない、でも清潔感があるホテルを予約しました。目的はとにかく「食」ですね。SNSで流れてきた最新のカフェとか、YouTubeで見たタッカンマリの店とか、あとは美活というか、ちょっと肌の管理もできればなど。

【インタビュアー】 「食」と「美活」がメインの2泊3日ですね。今回の韓国旅行で、移動手段をLCCにしたり、宿を東大門のリーズナブルな場所にしたりと、いろいろ選択されたと思うのですが、何を基準にこれらを選びましたか？

【対象者】 うーん、基準というか……正直、今の時期って航空券がめちゃくちゃ高いじゃないですか。以前だったらフルサービス (ANA や JAL) でもいいかなって思いましたけど、今は LCC でも「えっ、この値段？」ってなる。だから、移動にお金をかけるのが馬鹿らしくなって。宿も、どうせ寝るだけだし、それなら浮いた分を食事とか、あっちで買う服とかに使いたいですよね。

【インタビュアー】 「移動にお金をかけるのが馬鹿らしくなった」という感覚について、もう少し詳しく教えてください。以前と比べて、具体的にどういった変化を感じて、その判断に至ったのでしょうか？

【対象者】 なんて言うんですかね、物価高とか円安の影響をダイレクトに感じるんですよ。例えば、韓国に行くだけで航空券が数万円上がっている。さらに現地での食事代も、日本と変わらないか、下手したら韓国の方が高い。そうなると、全部を自分の理想通りにリッチにするのは無理。だから、「自分にとっての正解」をどこに置くかですよね。僕の場合は、移動中の快適さよりは、現地で何を食べるか、何を体験するかの方が「コスパがいい」って感じちゃうんです。

【インタビュアー】 なるほど。全体の予算をどう配分するか、自分なりの「正解」を考えて選んでいるのですね。ちなみに、今回の GW の予算はトータルでどのくらいを見込んでいますか？また、その費用は普段の生活費と比較して、ご自身の中でどう位置づけていますか？

【対象者】 航空券と宿、現地での食費とか全部込みで 15 万から 20 万くらいですかね。普段の生活は、港区に住んでいることもあって家賃も高いし、食費も意識しないとすぐ膨らむので、結構ギリギリです。でも、長期休暇の遊び代は「別腹」っていうか、ここを削ると仕事をしている意味がないと思っちゃう。だから、ボーナスを充てたり、普段の飲み会を少しだけ安い店にしたりして、帳尻を合わせてる感じです。

【インタビュアー】 普段の生活を調整してでも、休暇の費用は確保したいという思いがあるのですね。計画を立てる際、本当はもっとこうしたかったけれど、あえて「我慢したこと」や「諦めたこと」はありますか？

【対象者】 あー、ありますね。本当は GW、ヨーロッパとかに行きたかったんですよ。でも、燃油サーチャージとか、向こうのホテル代を見たら、1 週間で 50 万~60 万とか平気でするじゃないですか。さすがにそれは、今の自分の給料とか、今後の貯金を考えると「分不相応」だなって。だから、今回は近場の韓国で「凝縮して遊ぶ」ことに切り替えました。

【インタビュアー】 ヨーロッパを諦めて、韓国で凝縮して遊ぶことにしたと。一方で、夏休みは「泊まりの旅行をしない (日帰り BBQ)」という選択をされていますが、これは GW とのバランスを考えたことでしょうか？それとも何か別の理由がありますか？

【対象者】 完全にバランスです。GW に 15 万~20 万使うとなると、夏も同じように海外とか沖縄とかに行く余裕はないです。夏は夏で、友達と集まれば楽しいので、日帰りでサクッと遊んで、あとは家でゆっくりするか、都内のサウナにでも行ってればいいかなって。2025 年、去年までは夏も 2 泊くらいでどっか行ってたんですけど、今年はちょっと、無理してまで行かなくていいかなっていう、冷めた感じもどこかにありますね。

【インタビュアー】 「無理してまで行かなくていい」という、少し冷めた感覚について詳しく伺いたいです。2025 年と比較して、そう思うようになった背景には、何が影響しているのでしょうか？

【対象者】 やっぱ、目に見えていろんなものが値上がりしたからじゃないですかね。去年はまだ「久

しぶりの旅行だし、多少高くても行っちゃえ」みたいな勢いがあった気がしますけど、2026年になって、この物価高が「一時的なものじゃない」って確信に変わったというか。SNSを見てても、みんなキラキラした旅行をアップしてますけど、その裏で「これ、いくらかかってるんだろう」って計算しちゃう自分がいて。無理に背伸びして旅行に行くより、自分の身の丈に合った楽しみ方を探さないと、疲れるなって思うようになったんです。

【インタビュアー】 GWの韓国について、もう少し詳しく伺わせてください。数ある選択肢の中で、今回あえて韓国を選ばれた一番の決め手は何だったのでしょうか。あと、今回はお一人で行かれる予定ですか？

【対象者】 あ、一人ではなくて、大学時代の友人と男2人でいきます。韓国を選んだのは、さっき言った「食」もそうですけど、やっぱり「今の韓国」を見ておかないと、という感覚があるからですかね。仕事でSNSのトレンドを追っていても、結局韓国発のコンテンツやお店が日本に入ってくる流れがずっと続いていて。それなら現地で、今一番熱いものを直接食べて、見てきたほうが話のネタにもなるし、自分自身のアップデートにもなるかなと。

【インタビュアー】 ご自身の「アップデート」や「仕事のネタ」という側面もあるのですね。ご友人と行かれるとのことですが、そのご友人とはどのようにして「韓国にしよう」と決めたのですか？

【対象者】 最初は「どこか海外行きたいね」って話してたんです。タイとかベトナムも候補に上がったんですけど、日数を考えると休みが合わなくて。かといって、ハワイとかグアムは今の円安だと、現地で何もできずに終わるのが目に見える。消去法って言うとアレですけど、2泊3日で、今の自分たちの予算感で、一番「行った感」というか「リッチな体験」が凝縮できそうなのが韓国だった、という感じです。

【インタビュアー】 「リッチな体験が凝縮できそう」という言葉がありましたが、限られた予算と日数の中で、具体的にどのような場面でその「リッチさ」を感じたいと考えていますか？

【対象者】 例えば、日本では予約困難な店に似たジャンルの、ソウルで一番勢いのある店に並んで食べるとか。あとは、日本では手に入らない韓国ブランドの服を買うとか。移動や宿を切り詰めている分、現地での1食に1万円以上かけるのは躊躇したくないんですよね。安く済ませる旅行じゃなくて、「使うべきところにはガツンと使う」というメリハリをつけたい。それが、今の自分にとっての満足度に直結している気がします。

【インタビュアー】 さらに詳しく教えてください。スケジュールですが、「金曜の夜か土曜の朝に出て月曜に帰る」となると、現地での宿泊は1泊か2泊のどちらかになるイメージでしょうか。かなりタイトな印象ですが、そのあたりの具体的な滞在時間と、あと「肌の管理」についても、具体的にどんなメニューを予定されているのか詳しく伺えますか？

【対象者】 あ、そうですね。金曜の仕事終わりに深夜便で飛んで、土曜の早朝に着くパターンを狙っているんで、そうなると現地での宿泊は土曜と日曜の「2泊」になります。月曜の夕方か夜の便で帰ってきて、火曜からまた仕事、という感じです。本当に寝に帰るだけみたいなスケジュールですけど。

「肌の管理」は、ポテンツァとかリジュランとか、いわゆる肌質改善系の施術ですね。日本で受けると1回5万~10万くらいすることもザラですけど、韓国だとその半額以下で、しかも最新の機械で受けられる。男がそこまでやるか？って思われるかもしれないですけど、広告業界にいと清潔感って結構大事ですし、これも一種の「自分への投資」だと思ってます。

【インタビュアー】なるほど。2泊3日をフルに使って、美容への投資も組み込んでいるんですね。「日本だと高いけど、韓国なら半額以下」というお話がありましたが、そういった「お得感」や「投資効率」のようなものは、今回の旅行全体においてどの程度重視されているのでしょうか。

【対象者】めちゃくちゃ重視してます。というか、それが今の旅行の「大義名分」になってる気がしますね。単に「遊びに行く」だけだと、この物価高の中で贅沢してる感じがして少し罪悪感があるんですけど、「日本で受けるより安い施術を受けに行く」とか「日本未上陸のトレンドを仕入れに行く」という目的があれば、自分の中で納得感が出るんです。

【インタビュアー】「自分への納得感」という言葉、興味深いです。例えば、もし韓国での物価や施術代が日本と同じくらいまで上がってしまったとしたら、それでも今回の旅行に行こうと思われましたか？

【対象者】うーん……そうになったら行かないかもしれないですね。それこそ「デジタル旅行」というか、YouTubeで現地のVlogを見て満足しちゃうかも。わざわざ高い金払って、疲れる思いをしてまで移動する意味って何だろう？って考えちゃうと思います。今の自分にとっての旅行は、やっぱり「リアルでしか得られないリターン」が、かけたコストを上回っていることが前提ですね。

【インタビュアー】なるほど。そうすると、初日は土曜日の早朝にソウルに到着されるわけですが、ホテルのチェックインができる午後までは、どのように過ごす予定ですか？到着してから月曜に帰までのざっくりとしたプランと、なぜその流れになったのか、理由を合わせて教えてください。

【対象者】そうですね、朝5時か6時くらいに仁川（インチョン）に着くので、まずは空港のシャワーとかで身なりを整えて、そのままソウル市内に移動します。午前中は、早朝からやってる東大門のタッカンマリの店とかで朝飯を食べて、その足で皮膚科かクリニックに行っちゃう予定です。さっき言った「肌管理」ですね。

【インタビュアー】到着してすぐ、午前中にクリニックへ行くんですね。それは何か理由があるのでしょうか。

【対象者】はい。肌の施術って、やった直後は顔が赤くなったり、お酒を控えなきゃいけないったりする「ダウンタイム」があるんですよ。だから、先に済ませちゃったほうが、後半の旅行を楽しめるかなと思って。で、午後はカフェで仕事の資料をちょっと見たり、SNSで流れてきたショップを回ったりして、夕方にホテルにチェックイン。夜は友人と合流して、ガッツリ焼肉とかローカルな居酒屋で飲む、という感じです。

【インタビュアー】なるほど。先に「投資（美容）」を済ませてから「遊び」に移行する、効率重視のスケジュールですね。2日目や最終日はどう動く予定ですか？

【対象者】2日目は一日中「食と買い物」です。話題のエリア（聖水洞とか）をハシゴして、日本未上陸のブランドをチェックしたり。最終日の月曜は、朝からデバ地下とかスーパーでお土産とか自分のストック用のパックとかを大量に買い込んで、夕方の便で帰る……という流れですね。このプランにしたのは、とにかく「日本にいたらできないこと」を凝縮したかったからです。ダラダラ移動したり悩んだりする時間は極力減らして、常に「今、一番旬な体験」に触れていたいというのが、僕と友人の共通した考えですね。

【インタビュアー】「日本にいたらできないこと」を凝縮し、常に旬の体験に触れていたい、と。ちなみに、そうしたタイトなスケジュールをこなす中で、例えば「行列で1時間待つ」とか「移動が不

便」といったストレスについてはどう考えていますか？

【対象者】 あー、そこは割り切ってますね。 タイパ（タイムパフォーマンス）は大事ですけど、その「行列」自体も、今の韓国の勢いを感じる一つのコンテンツだと思ってるので。逆に、どこに行ってもガラガラだったら「あれ、ここ外したかな？」って不安になるかもしれません。移動も、タクシー配車アプリとかを駆使して、できるだけストレスを減らす努力はしますが、基本的には「濃い体験」のためなら多少の不便は飲み込む、というスタンスです。

【インタビュアー】 1日目にお友達と「合流」とおっしゃっていましたが、移動や初日の最初のプランは別行動なんですか？

【対象者】 あ、そうですね。行き帰りの飛行機は一緒なんですけど、ソウルに着いてからは一旦別々に動くことにしています。というのも、彼は彼で別のクリニックの予約を入れてたり、見たいショップが違ったりするので。わざわざ高い金払って海外まで来てるのに、相手の予定に無理に合わせて時間をロスするのはもったいないよね、っていうのが共通の認識です。

【インタビュアー】 なるほど。海外旅行であっても、目的によっては無理に一緒に動かないというスタンスなんですね。そういった「別行動」に対して、寂しさや、せっかく一緒に行っているのにな、という感覚はないのでしょうか。

【対象者】 全然ないですね。むしろその方がお互いストレスがないです。今はLINEとかでリアルタイムに「今ここ並んでる」とか「これ買った」って共有できるし、夜に合流して「今日これ食った、これ買った」って報告し合いながら飲むのが楽しいので。さっきの「タイパ」じゃないですけど、限られた2泊3日を最大化するには、このスタイルが一番合理的だと思ってます。

【インタビュアー】 「合理的」という言葉が出ましたが、友達との旅行において「一緒に過ごす時間」と「自分の目的を果たす時間」、それぞれの価値をどう捉えていますか？

【対象者】 「一緒に過ごす時間」は、現地での食事とか酒の席で、その時の空気感を共有することに価値があると思ってます。一人で飯を食うより、誰かと「これヤバイね」って言いながら食べるほうが絶対美味しいし、記憶にも残る。でも、買い物とか美容とか、個人的なこだわりが強い部分は、一人で自分のペースで動くほうが「納得感」が高い。全部一緒にベッタリ過ごすのが「仲が良い」っていう時代でもない気がしますし、お互い自立して楽しんだ上で、一番美味しいところだけ共有するのが、今の僕らにとっての「良い旅行」なんだと思います。

【インタビュアー】 なるほど。そうすると、初日の午前中はそれぞれが自分のメンテナンスや目的に集中して、夜にその成果を持ち寄るような形なんですね。一つ気になったのが、先ほど韓国を選んだ理由として「一番『行った感』とか『リッチな体験』が凝縮できそう」とおっしゃってました。この「行った感」や「リッチな体験」というのは、具体的にどういう要素から得られるものなのでしょうか？

【対象者】 うーん……一言で言うと「日本にいる自分より、ちょっといい生活をしてる」って感覚ですかね。例えば、日本で同じ金額を払っても、今の物価だと「普通に美味しいものを食べた」で終わっちゃう。でも韓国なら、さっきの美容もそうですけど、日本だと手が出にくいレベルの最新施術が受けられたり、日本では予約すら取れないようなコンセプトの強いカフェにサクッと入れたりする。

【インタビュアー】 「日本にいる自分より、いい生活をしている」という感覚を、もう少し分解して教えていただけますか？

【対象者】 要は「情報の鮮度」と「支払った金額に対するリターンの大きさ」の掛け合わせだと思います。SNS でみんなが見ている「今、一番イケてるもの」を、自分は今まさに体験しているっていう優越感に近いかもしれないです。それが、LCC の狭い座席に数時間耐えるだけで手に入る。逆に、日本で同じレベルの「リッチさ」を感じようとすると、港区だと何十万もかかる気がしちゃうんですよね。そのギャップを埋めてくれるのが、僕にとっての「行った感」なんだと思います。

【インタビュアー】 「優越感」や「日本で感じるリッチさとのギャップ」というお話、非常にリアルです。そうすると、例えば「誰も知らない静かな場所でゆっくりする」といった旅行は、今のあなたにとっては「行った感」には繋がりにくいのでしょうか？

【対象者】 あー、今の僕には全く響かないですね。「ゆっくりする」のは家とか近所のサウナでもできるじゃないですか。わざわざ高い航空券代を払って、円安の状況で海外に行くなら、そこには明確に「自分の市場価値を上げる情報」とか「SNS で映える強いコンテンツ」がないと、コストに見合わないって思っちゃいます。今はまだ、刺激を求めて動いている方が、自分の生活が充実している実感が持てるんですよね。

【インタビュアー】 もう一点、移動についても伺わせてください。今回、金曜の仕事終わりの「深夜便」を選ばれていますよね。土曜日の朝の便で出発しても、滞在日数としてはさほど変わらない気もしますが、あえて深夜便を選んでいるのは何か理由があるのでしょうか？

【対象者】 それは明確に「土曜の午前中をフルに使うため」ですね。土曜の朝便だと、ソウルに着くのはお昼過ぎになります。そこから入国審査をして市内へ移動して……となると、結局動き出せるのは15時とか16時になってしまう。

でも深夜便なら、朝5時とか6時に着いて、そのまま午前中にクリニックの予約が入れられる。さっき言った「先に肌管理を済ませる」というスケジュールを成立させるには、どうしても土曜の朝一番に現地にいる必要があるんです。

【インタビュアー】 なるほど、午前中の「数時間」の差が、旅行全体の質を左右するということですね。

【対象者】 そうです。月曜には帰らなきゃいけないタイトなスケジュールなので、数時間のロスが致命的なんです。深夜便は確かに体力的にキツイですけど、その分、土曜の午前中という「本来潰れてしまう時間」を有効活用できる。

あと、深夜便で行くと、土曜の朝から現地の活気というか、東大門とかの独特な空気感の中で朝飯を食べるんですよね。その「初日の朝からフルスロットルで動いている」という感覚自体が、2泊3日の密度を上げている実感が持てて、自分の中では納得感が高いんです。

3. 旅行に対する意識・旅行の意味づけ

【インタビュアー】 今回の韓国旅行の計画、非常に戦略的で目的が明確ですね。さて、ここからは少し先の話も伺いたいのですが、今回の韓国以外で、今後「いつかやってみたい」と思っている旅行や、気になっている行き先はありますか？

【対象者】 うーん、次は北欧の方に行ってみたいですね。デンマークとかスウェーデンとか。仕事でデザイン系のリサーチをすることも多いので、現地の建築とかインテリアショップを自分の目で見て回りたいなど。韓国と同じで、やっぱり「今の最先端」がどうなっているのか、その空気感を肌で感

じたいってというのが強いです。

【インタビュアー】 北欧ですね。先ほど、韓国旅行については「コストに見合うリターン」を重視されていましたが、北欧のような遠方で物価も高い場所に対しても、同じような「リターン」を求めて行くイメージでしょうか？

【対象者】 そうですね。むしろ遠くて高いからこそ、よりシベリアにリターンを求めちゃうと思います。ただ観光地を回るだけなら、それこそインスタで十分。わざわざ高い金払って行くなら、「今の自分の仕事にどう還元できるか」とか「どれだけ自分の感性をアップデートできるか」っていう、実利に近い納得感が欲しくなる気がします。

【インタビュアー】 ありがとうございます。そういった「効率やリターン」を重視するスタイルがある一方で、例えば「青春 18 きっぷ」を使って、あえて時間をかけてゆっくり国内を移動するような旅行については、今のあなたから見てどう感じられますか？

【対象者】 正直に言うと、今の僕の生活リズムや価値観には、全く選択肢として入ってこないですね。学生の頃なら「安く遠くへ行ける」ことに価値があったんでしょうけど、社会人 5 年目になって、時間が一番の資産だと思っている今の自分からすると、移動に何十時間もかけるのは苦痛でしかありません。その時間があるなら、サクッと飛行機で目的地に行って、現地で一軒でも多く面白い店を回りたい。

【インタビュアー】 「時間が一番の資産」という感覚ですね。では、最近増えている「デジタル旅行」、例えば YouTube で現地の高画質な Vlog を見たり、VR で擬似体験したりすることについては、ご自身の中で「旅行」の代わりになり得ると思われますか？

【対象者】 代わりにはならないですね。あれはあくまで「予習」か「カタログ」です。映像で見れば確かに「どんな場所か」は分かりますけど、その場の匂いとか、店員の愛想のなさとか、実際に食べたものの味とか……そういう「五感」を通した不確実な体験こそが旅行だと思うので。デジタルで済ませるのは、僕にとっては「旅行」ではなく、ただの「コンテンツ消費」っていう感じです。

【インタビュアー】 北欧への興味や、時間対効果を重視するお考え、よくわかりました。そうすると、あなたにとって「旅行」という行為そのものは、人生や生活の中でどのような意味を持つものと言えますか？

【対象者】 うーん、一言で言うなら「自分の停滞を防ぐための、強制的なアップデート」ですかね。港区で仕事して、それなりの店に行って……っていう生活を続けていると、どうしても感覚がマヒしてくるというか、ルーチンになっちゃうんです。だから、定期的に海外とかの「強い刺激」の中に自分を放り込んで、脳を動かさないといけない。旅行に行かない人生は、僕にとっては「ただ消費されるだけの毎日」になっちゃうので、不可欠なものだと思います。

【インタビュアー】 「ただ消費されるだけの毎日」にならないためのアップデート、ということですね。ただ、2026 年現在は物価の上昇や社会保険料の負担増など、生活費への圧力が強まっています。今後、こうした経済的な制約がさらに進んでいく中で、ご自身の「旅行」はどうなっていくと予想されますか？

【対象者】 要望としては、もっと自由に、思い立ったらすぐヨーロッパに行けるような働き方や稼ぎ方をしたいです。でも現実には……もっと「選別」がシベリアになるでしょうね。なんとなく行く旅行はゼロにして、今回みたいに「ここに行けばこれが得られる」っていう確証があるものにだけ、大金を注

ぎ込む。回数は減っても、一回の密度を上げるしかない。

【インタビュアー】 その「選別がシビアになる」という現実の予想に対して、ご自身ではどのように捉えていますか？

【対象者】 正直、しんどいなとは思いますが。昔ならもっと適当に遊べたはずなのに、今は「失敗したくない」というプレッシャーがすごい。でも、その制約があるからこそ、一回の旅行に対する本気度も上がるし、必死で情報を集めて「正解」を掴み取ろうとする。ある意味、ゲームみたいですよ。

【インタビュアー】 ゲームのような感覚、興味深いです。では、そうした厳しい制約や取捨選択の中でも、「これだけは譲れない」「これだけはやりたい」と最後まで残る要素は何だと思われますか？

【対象者】 「自分にしかできない体験への投資」ですね。ブランド品を買うとか、豪華なホテルに泊まるとかは、極論、金さえあれば誰でもできる。でも、「今この瞬間に、ソウルで一番尖ってるやつらが集まる場所に自分もいた」という実感とか、自分の肌をメンテナンスして「自信」を持つこととか。そういう、形には残らないけど自分の血肉になる体験だけは、どんなに生活が苦しくなっても、なんとかして捻出して守り抜きたいなと思ってます。

【インタビュアー】 実際、今の生活費がギリギリとおっしゃる中で、今回の韓国旅行などの費用は、具体的に日々の生活のどこを削ったり、どういった工夫で「捻出」されているのでしょうか。また、さらにハードルの高い北欧旅行を実現するためには、今後どうしていこうというイメージをお持ちですか？

【対象者】 今の捻出方法でいうと、一番大きいのは「日常の固定費以外の変動費」の徹底した管理ですね。港区に住んでいると、ランチ1回で2,000円超えることも普通ですけど、普段の平日はコンビニのサラダとチキンで済ませて1,000円以下に抑えるとか。あと、なんとなく誘われた二次会には絶対行かない。一晩で5,000円、1万円と溶かすのがもったいないので。そうやって浮いた月数万円を、旅行用の別口座に「先取り」で移しています。あとはボーナスですね。基本、ボーナスは全額「体験代」としてキープしています。

【インタビュアー】 日々の数千円単位の支出をシビアに管理して、旅行という大きな体験に集約させているのですね。では、北欧旅行のような、より高額な費用が必要なものについては、今の延長線上の工夫でいけそうですか？ それとも、何か別の次元の準備が必要だと考えていますか？

【対象者】 いや、今の延長線じゃ北欧は無理ですね。1週間で80万とか100万近くかかる可能性を考えると、日々のランチを削るレベルじゃ追いつかない。だから、今後1、2年は「近場の高密度な旅行（韓国など）」で自分をアップデートし続けて、仕事で結果を出して給料を上げるか、副業的な動きをして「種銭」自体を増やすしかないと思ってます。自分の中では、北欧に行くことは「今の自分を卒業して、次のフェーズに行くためのご褒美」みたいに位置づけているので、単に貯金するっていうよりは、その金額を払える自分にならなきゃな、っていう感覚が強いです。

【インタビュアー】 「その金額を払える自分になる」という、自分自身への課題のような位置づけなのですね。もし、そうした努力をしても物価高や税負担がそれを上回って、どうしても北欧が遠のいてしまったとしたら、その時は「旅行」というものとの付き合い方はどう変わるとおもいますか？

【対象者】 そうなったら……さらに「一点突破」になるでしょうね。3年に一度、それこそ「清水の舞台から飛び降りる」くらいの覚悟で北欧に行く。その代わりに、それ以外の2年半は国内の日帰りすら我慢する。中途半端な国内旅行や近場でお茶を濁すのが一番ストレスが溜まる気がするんです。「妥

協してここに来た」って思いながら過ごす時間は、僕にとって一番の無駄なので。だったら、ゼロか百か。最高の体験ができるまで牙を研いで待つ、みたいなストイックな付き合い方になる気がします。

【インタビュアー】 本日は長時間お付き合いいただき、本当にありがとうございました。これにてインタビューを終了させていただきます。